

「日・タイ友好マングローブ植林 2003」 ニュースレター No.1

เพื่อน กัน

フアン・カン
(友達同士)

みなさん、お元気ですか。11月になり、いよいよタイへ出かける日が間近になりました。今年は私たちがタイ・マングローブ植林をはじめて10年目となります。タイ現地では私たちを迎える準備を着々と進めているとのことですので、今年はどんな植林となるのか？どんな出会いがあるのか？心が浮き立ってきますね。

元気で楽しく植林できるよう健康管理に十分に気を付けて出発日をお待ちください。

(編集委員一同)

この度は「日・タイ友好マングローブ植林 2003」に多数の皆様にご参加いただき、誠にありがとうございます。このマングローブ植林活動は、1994年に開始し、今年で10周年(10回目)を迎えることができました。これまでの9年間に日本も世界も大きく変わってしまいましたが、タイ現地の人々と私たちとの関係は変ることなく継続し、累計200ha、90万本の植林をし、タイと日本との友好関係を深めることができました。ここまで継続してこられたのは、日本から参加いただいたボランティアの皆様のご理解とご支援によるものであり、あらためて感謝申し上げます。

今年の第1日目の植林は、私たちが最初に植林に訪れた(第1～3回の植林場所)「パンガ県バントイ地区」で行います。10周年ということで地元の人たちも特別な記念行事(11/29 Evening party)を準備していたところ、マングローブ林の再生・保全への村をあげての取り組みがタイ国の模範として認められ、「女王陛下の旗」が戴けることになりました。記念式典の冒頭に県知事から地区のリーダーへ授与されるとのことで、10周年を祝うのに最高の贈り物です。当日は地区をあげての盛大な記念行事となることでしょう。

先月末に現地へ行き、県知事を表敬訪問し、植林サイトの準備状況を確認してきました。

今月末には天候も安定し、例年どおりに植林作業と地元の人たちとの交流ができるはずです。

暑い中での盛り沢山の行事と植林作業となりますので、今から体調を整え、タイ行きに備えていただくようお願い致します。

11月に皆様と一緒にタイへ行くのを楽しみにお待ちしております。

タイ・マングローブ植林実行委員会
委員長 服部達雄



2003.10.31 パンガ県知事を表敬訪問

発行日：平成15年11月1日

発行者：服部達雄(タイ・マングローブ植林実行委員会 委員長)

編集者：池上恵理・三枝信子(同 ニュースレター編集委員)

Web版編集：竹村 登(同 ニュースレター編集委員)

これまでの植林の様子やマングローブ関連情報は、次のHome Pageでご覧ください。

<http://www.mangrove.gr.jp>

「日・タイ友好マングローブ植林2003」植林サイトのロケーション



マングローブ植林の実際

マングローブ植林の全体作業

マングローブ植林は次のフロー(流れ)で進められます。私たちが現地で行うのは「植え付け」ですが、現地の人たちによる事前の準備作業と事後のフォロー作業とがあって、マングローブ林の再生が成就します。

採種 播種・育苗 植林サイトの整地 苗の搬入 植え付け 管理

採種(種集め)

マングローブの種子の形には細長いものや丸いものがあります。胎生種子といって、帽子の部分(萼頭:がけ)の中に発芽部(幼根)があります。種子が出来る時期は樹種によって異なります。

播種・育苗(苗を育てる)

集めた種子は土を入れたビニールポットに一本一本差して植え付けつけます。水分管理を行って育てると3,4ヶ月で植栽可能な苗木に成長します。タイでは太陽の光が強いので寒冷沙などで遮光して育てます。

植林サイトの整地

倒木などの障害物を除去したうえで、苗を植える場所に目印となる竹串を等間隔に立てます。

苗の搬入

育苗地から植林サイトまで育てた苗を運搬します。植林サイトの中は柔らかな泥地なので人手によって運び込むことになります。

植え付け

先端を尖らせた丸太を地面に突き刺し、左右に動かして孔を開けます。この孔にビニールポットから取り出した苗を入れ、回りに土を寄せて押さえ、苗が倒れないようにします。(ビニールポットは竹串の上端に差して置いて、後で回収します。)

胎生種子を植え付ける場合には、芽が出る先端部を傷めないように気を付けながら地面に直接挿します。

管理(フォロー作業)

植林した後のフォローを現地の人たちが行います。定期的に見回りし、根付かず枯れてしまったところには補植をします。雨期が過ぎ1年経つとワキ芽が出て順調に育つようになります。

今年の植林は「地下足袋」で(^^)！！

いよいよ植林の季節が近付いてきました！

今年の植林地は、バントイ地区バン・クランとカライ地区バン・チャンマイという2つの村です。

2日間ともパンガ県での活動となります。そこで今回はそれらがどんな場所なのか、簡単にご紹介させていただきます。

バン・クランは、94年の第1回から3年続けて植林をしたバントイ村にあります。今年の植林地は、96年の植林地の表側（道沿い）にあたる場所です。古くからのリピーターの方々には、懐かしいバントイ村の子どもたちや村人たちとの再会になりますね。今年は**10周年**ということもあり、バントイ村では**歓迎のパーティ**を計画してくれているそうです。楽しみです(^^)！

ここは、かつて錫の掘削が行なわれていた場所で、そのドレッジ船のために、そこにあったマングローブは大規模に伐採されてしまいました。私たち「日・タイ友好マングローブ植林」でも、お手伝いをして、今では立派なマングローブ林になっている場所も増えてきましたが、まだ植えられていなかった土地に、今回は植林をすることになりました。

さて、ここの地面の様子ですが、ここは大変なぬかるみになっています。油断をすると、足が膝までも沈みこんでしまい、一人では抜け出せなくなってしまうような場所です。いや、大袈裟ではありません！泥というのは、

大変に重いのです。靴も、泥に取られてしまうでしょう。そういった柔らかい場所になったら、すぐに引き返していただくのが一番ですが、慣れないと（特に地元の子どもたちが一緒だと）なかなか判断が難しいかも知れません。

皆さん、今年の植林には、ぜひ**“地下足袋”**を持参してください。長靴でも良いのですが、普通の長靴ではまず無理ですし、セイラー用の口を縛るだけのものでも、泥にはまったら、取られてしまいます。地下足袋がベストです。

また、泥の中には、思わぬ危険なもの（貝殻や枝、根、ガラスの破片など）が沈んでいないとも限りません。靴下も必ず着用しましょう。

一方、バン・チャンマイは、川沿いの土地です。こちらは地面は固いのですが、周りに雑草が茂っているところがあり、トゲがある場合があります。長袖・長ズボンが必須になります。



皆さん、ケガや事故なく、楽しく植林をするために、今年の植林は、**長袖・長ズボン**、そして**地下足袋**を準備しましょうね！

報告：三枝信子 / 2003.10.04

マングローブ植林報告会 タイ現地よりの声

第1～3回植林を一緒に行ったタイ・パンガ県バントイ村の少女を招いて、タイ・マングローブ植林10周年を記念する報告会を行いました。当時あどけない小学生であった彼女たちも今や立派な大学生です。マングローブの成長とともに、みんながそれぞれに日・タイ友好の心を胸に成長されています。

過去のタイ植林参加者だけでなく、新たな方々にもご出席していただき、タイにおけるマングローブ植林の現状、私たちとの植林に対する現地の受け止めを直接話していただき、親しく交流を持つことが出来ました。

タイからの参加：Ms. Prapasri Thanasukarn（日・タイ友好植林のタイ側窓口）

Ms. Sunisa Bobthong（バントイ村少女）

Ms. Thasaneeya Tanyupak（バントイ村少女）

開催日時：2003年10月19日(日) 14時～17時

開催場所：中野区環境リサイクルプラザ5階会議室

主催：マングローブ・ネットワーク

協力：タイ・マングローブ植林実行委員会



[左から2人目、3人目のがバントイ村からの来訪者]



タイにおけるマングローブ植林の現状を報告される Ms.Prapasri

【実行委員会からのご注意とお願い】

ご参加の皆さんには約10名ずつの「班」に分かれていただき、タイ現地では班単位での行動をお願いします。（班編成は別途お知らせいたします。）

お配りした「健康・安全対策マニュアル」をよく読んで、注意事項を遵守してください。

旅行主催は、近畿日本ツーリスト・神田法人旅行支店です。（お手元へ送られた旅行約款に必ず目を通しておいってください。）

ボランティア植林といっても、一般の旅行と変わるところはありません。自分のことには自分が責任を持つこと（「自己責任」）が基本です。

安心して旅行するために「海外旅行保険（疾病、傷害、盗難など）」に加入しておくことを強くお勧めします。

初冬の日本から真夏のような暑さのところへ行きますので、十分に体調を調べておいってください。皆様とタイへ一緒できることを楽しみにしております。

ご意見・ご感想をお待ちしております。また、皆様からの投稿を歓迎します。（編集委員一同）

E-mail : Eriike77@aol.com , nobuko-s@mtb.biglobe.ne.jp